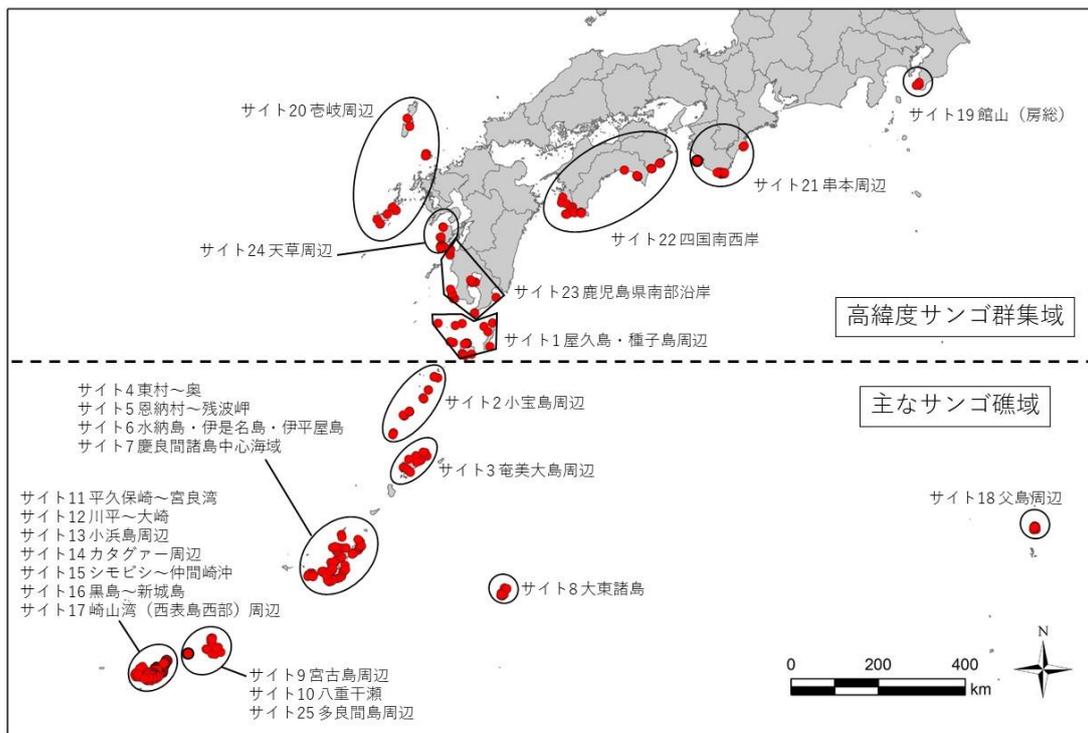


モニタリングサイト 1000 サンゴ礁調査

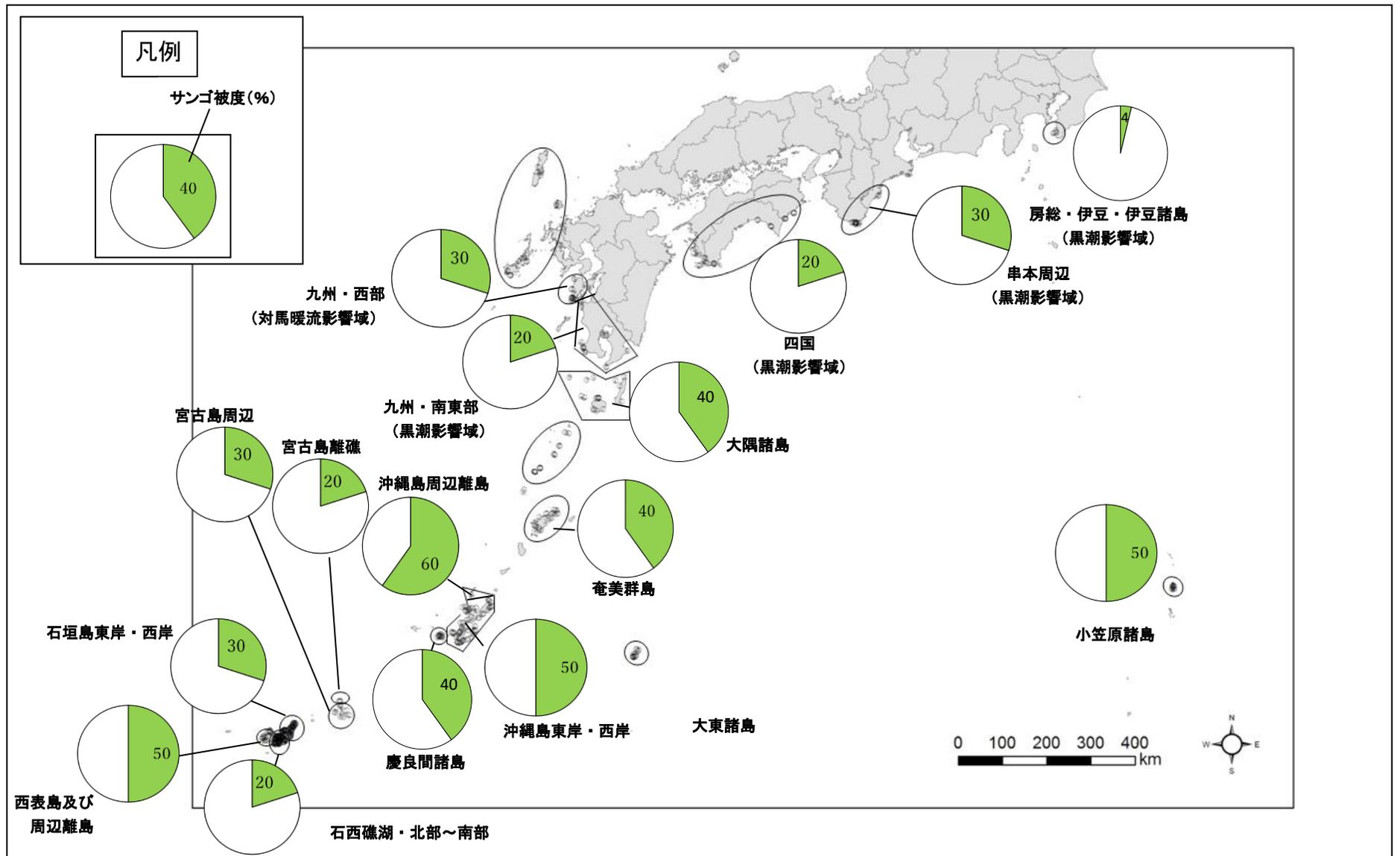
2021 年度とりまとめ結果

モニタリングサイト 1000 サンゴ礁調査では、サンゴ礁の発達する「主なサンゴ礁域」とサンゴ群集が生育する「高緯度サンゴ群集域」に合計 25 の調査サイトを設置し、毎年調査を行っています（小宝島周辺、大東諸島及び多良間島周辺の 3 つのサイトは、5 年に 1 度調査を実施しています）。

ここでは、2021 年度の調査結果の概要をお知らせします。



モニタリングサイト 1000 サンゴ礁調査 サイト位置図



モニタリングサイト 1000 (サンゴ礁調査) における 2021 年度の各地の平均サンゴ被度 (%)

各サイト及び海域の概況

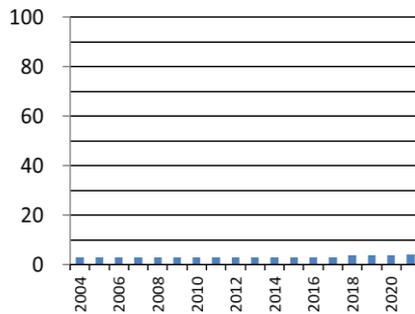
高緯度サンゴ群集域

モニタリングサイト 1000 サンゴ礁調査では、サンゴ礁を形成しない温帯域のサンゴ群集分布域のことを「高緯度サンゴ群集域」と呼び、屋久島とトカラ列島の間を境界にしてそれより北側の館山（サイト 19）から屋久島・種子島周辺（サイト 1）までの 7 サイトとなります。本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、多くの島嶼を含む壱岐周辺（サイト 20）での調査を中止したことから、高緯度サンゴ群集域の 6 サイトで調査を実施しました。

なお、グラフは各サイト又は海域の平均サンゴ被度（%）を 10% 刻みで表示したものです。

館山(サイト 19) 調査代表者:お茶の水女子大学・清本正人

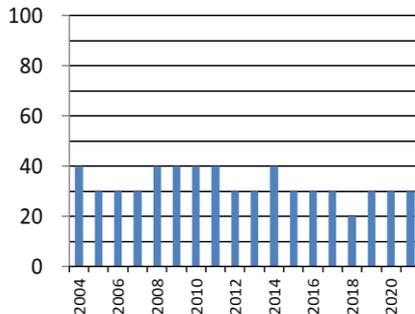
昨年と同様、低い被度（5%未満）の多種混成型及びアワサンゴ優占型のサンゴ群集が健全に維持されている。わずかに生息する卓状ミドリイシ群集も成長しており、新たな小群集が見つかった地点もあった。



50cm 以上に成長した卓状ミドリイシ類群集(地点 2)

串本周辺(サイト 21) 調査代表者:串本海中公園センター・平林勲

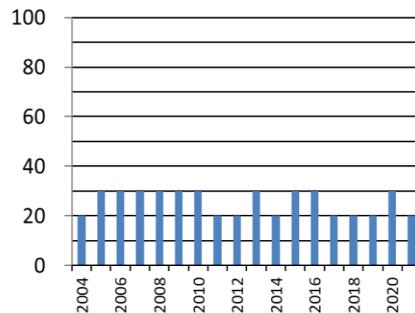
白化やオニヒトデによる被害は確認されず、昨年度の平均被度（30%）を維持している。ミドリイシ類の加入や成長が顕著な地点も複数確認された。サンゴ食巻貝が引き続き確認されているため、今後の動向に要注意。



サンゴ食巻貝による食害(地点 16)

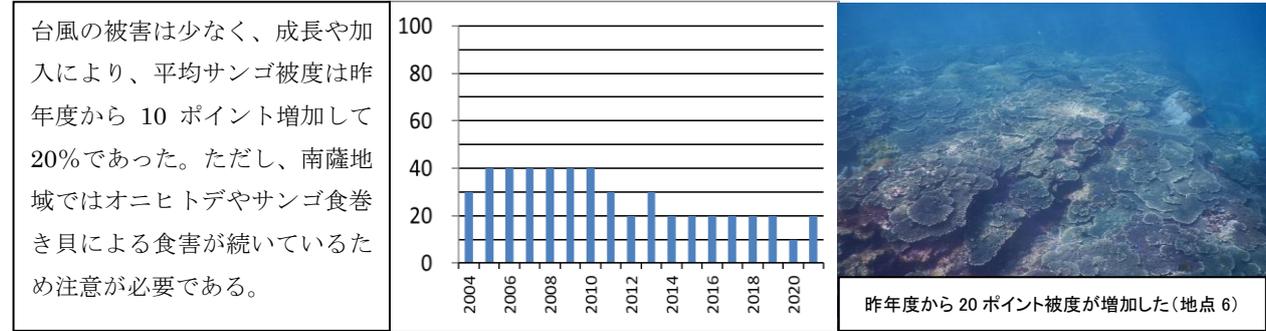
四国南西岸(サイト 22) 調査代表者:黒潮生物研究所・目崎拓真

オニヒトデの被害が深刻な状況が続いており、平均被度が 10 ポイント減少した。オニヒトデは大発生レベルの地点が 1 地点、要注意の地点が 1 地点あり、駆除を継続している。サンゴ食巻貝の被害も見られる。

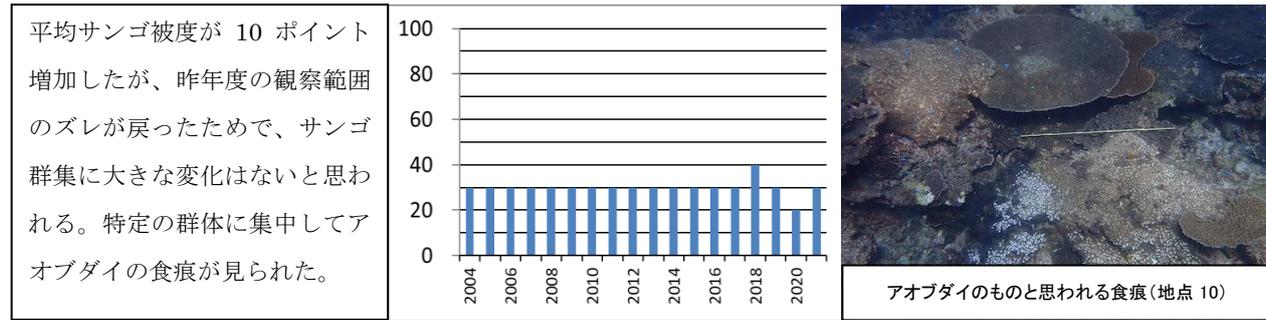


オニヒトデ大発生(地点 5)

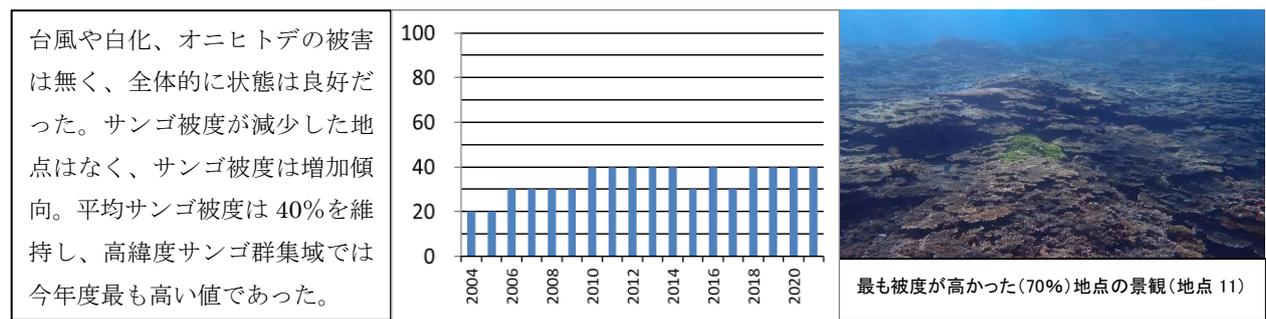
鹿児島県南部沿岸(サイト 23) 調査代表者:ダイビングサービス海案内・出羽慎一・出羽尚子



天草周辺(サイト 24) 調査代表者:九州大学天草臨海実験所・新垣誠司



屋久島・種子島周辺(サイト 1) 調査代表者:屋久島海洋生物研究会・松本毅



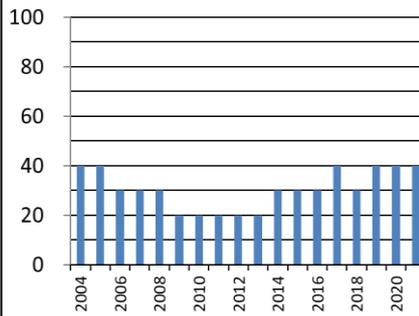
主なサンゴ礁域

主なサンゴ礁域とは、サンゴ礁を形成する亜熱帯域を指し、モニタリングサイト 1000 サンゴ礁調査では、小宝島周辺（サイト 2）以南の 18 サイトとなります。本年度は、5 年に 1 度モニタリングを行う遠隔地サイトのうち、小宝島周辺（サイト 2）の調査を実施予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のために調査を中止したことから、毎年調査を実施する 15 サイトで調査を実施しました。

なお、グラフは各サイト又は海域の平均サンゴ被度（%）を 10%刻みで表示したものです。

奄美大島(サイト 3) 調査代表者:ティダ企画有限会社・興克樹

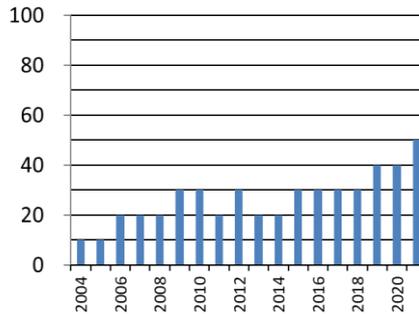
白化やオニヒトデの大発生、台風の接近はなく、サンゴは健全な状態が維持されている。平均サンゴ被度は昨年度と同じ 40%。過去にオニヒトデによって壊滅した群集が回復している。軽石の漂着は見られたが、影響はなかった。



最もサンゴ被度の高かった(80%)地点(地点 3)

沖縄島東岸・西岸(サイト 4~5)海域 調査代表者:沖縄県環境科学センター・長田智史

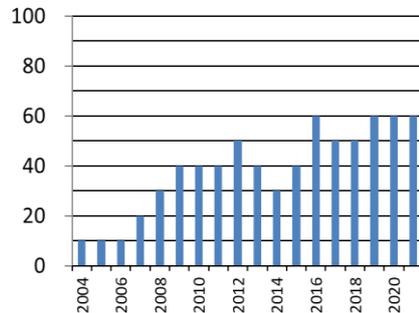
西岸では回復があまり見られないが、東岸でサンゴ被度が増加し、沖縄島全体として平均サンゴ被度が 10 ポイント増加して 50%であった。福德沖ノ場の海底噴火による軽石の漂着も見られたが、影響はなかった。



軽石の堆積が確認された(地点 39)

沖縄島周辺離島(サイト 6) 調査代表者:沖縄県環境科学センター・長田智史

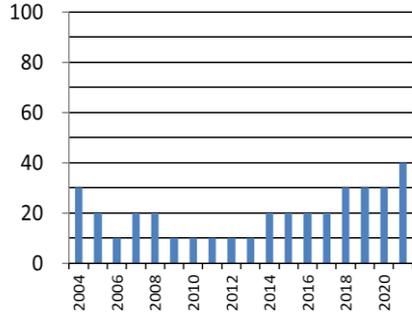
台風や白化、オニヒトデ等のかく乱は全地点で確認されなかった。サンゴ被度と加入数が昨年度より減少した地点はあったものの、3年連続で全サイトの中で最も高い平均サンゴ被度 60%を維持している。



サンゴ被度 70%の高被度サンゴ群集(地点 1)

慶良間諸島中心海域(サイト7) 調査代表者:熱帯海洋生態研究振興財団・岩尾研二

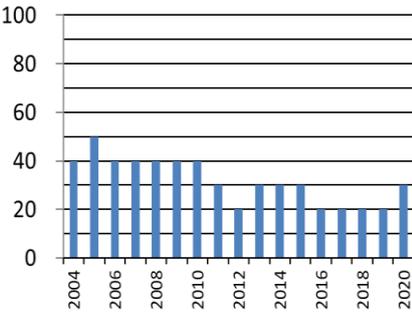
ミドリイシ類の被度及び群体が増加していることにより、平均サンゴ被度が 10 ポイント増加した。オニヒトデは 2015 年以降確認されず、白化もほとんどないが、サンゴ食巻貝の確認地点が増加している。



卓状ミドリイシ群体が成長し、高被度を維持(地点 6)

宮古島周辺(サイト9) 調査代表者:宮古島市教育委員会・梶原健次

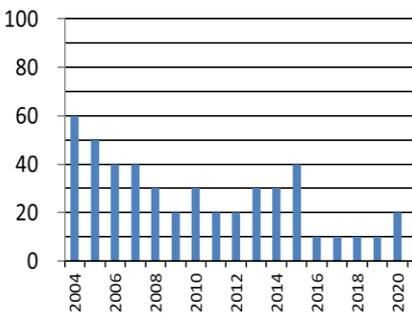
ミドリイシ類の成長によりサンゴ被度が増加した地点が多かったが、平均サンゴ被度は昨年度と同じ 30%であった。白化は確認されなかったが、オニヒトデの食痕が多く見られる地点もあり、注意を要する。



被度が回復傾向にある地点(地点 10)

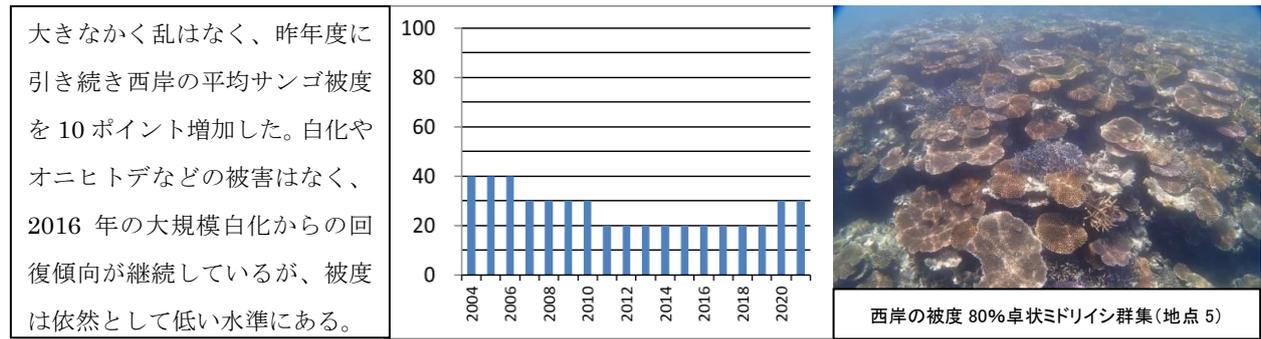
宮古島離礁:八重干瀬(サイト10) 調査代表者:宮古島市教育委員会・梶原健次

ミドリイシ類優占の地点でサンゴ被度の上昇が見られた。その他の地点ではミドリイシ類の成長は見られたが、被度の変化は確認されなかった。小型のオニヒトデが低密度で確認されている地点があり、注意を要する。

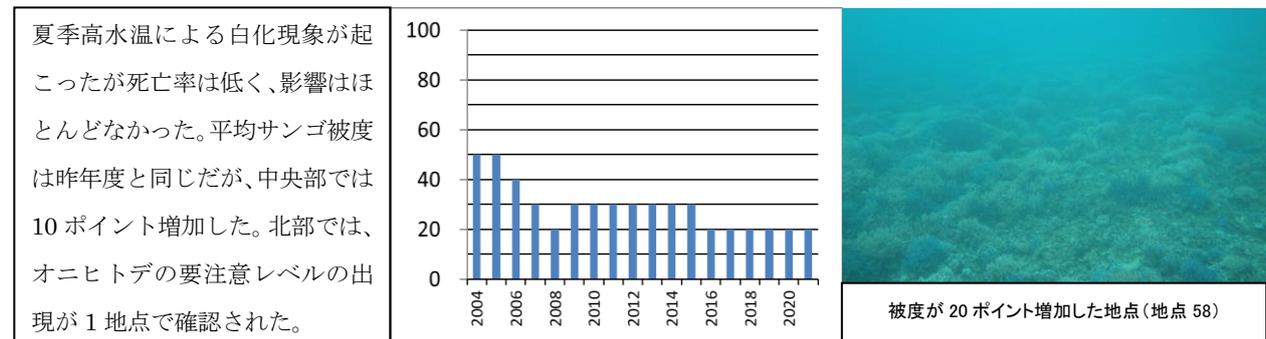


食痕付近に潜むオニヒトデ(地点 3)

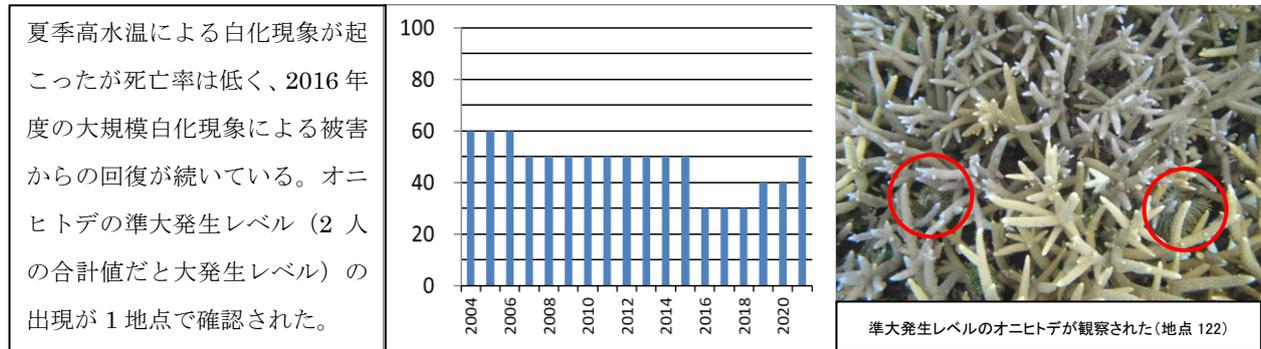
石垣島東岸・西岸(サイト 11、12)海域 調査代表者: 有限会社海游・吉田稔



石西礁湖北部～南部(サイト 13～16)海域 調査代表者: 自然環境研究センター・木村匡



西表島及び周辺離島海域(サイト 17) 調査代表者: 自然環境研究センター・木村匡



父島周辺(サイト 18) 調査代表者: 小笠原自然文化研究所・佐々木哲朗

